

子どもへの進学期待（図1 - 55・56）

図1 - 55は保護者が自分の子どもをどの学校段階まで進学させたいのかについてたずねたものの前回との比較である。6割の保護者が「大学卒業まで」と答えている。しかし、前回より5.4ポイント下がり、逆に「高校卒業まで」は5.8ポイント上がっている。

その理由はいろいろと考えられるが、1つは母親自身の学歴と関連があると思われる。図1 - 56の今回の首都圏のデータから、四年制大学卒業の母親の83.6%、短大卒業の母親の74.3%、高校卒業の母親の53.1%が、自分の子どもに「大学卒業まで」望んでいることがわかった。高学歴（四年制大学卒）の保護者は子どもへの進学期待が高い傾向が見られた。しかし今回は、高学歴の母親は前回の

20.3%より5.3ポイント減り、15.0%となっている。これが子どもの高学歴への期待が下がった結果につながったと思われる。もう1つの理由は、図1 - 56のグラフを見てもわかるように、前回と比較して、今回は高校卒業の母親の子どもへの大学進学期待が下がった（前回61.1%、今回53.1%。8.0ポイント減少）ことにある。今、学歴崩壊、終身雇用が崩れつつある社会になってきているので、子どもへの進学期待に昔ほどこだわらなくなったようである。また不景気のせいもあるかもしれない。ちなみに、大学卒業の親の子どもへの進学期待は前回とほとんど変わらなかった。

また性別で見ると、7割の保護者が男の子に大学まで進学してほしいと考えているのに対して、女の子の場合は、5割弱である。

図1 - 55 子どもへの進学期待（95年との比較）

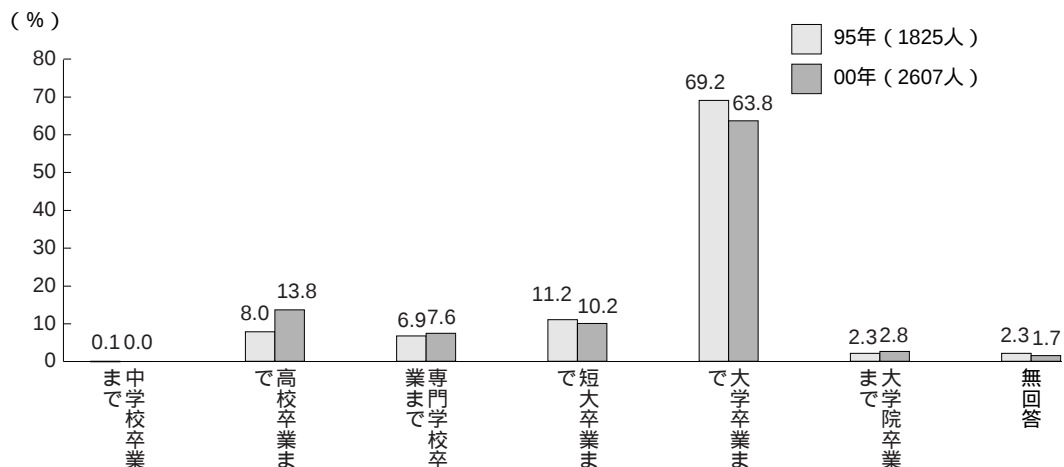
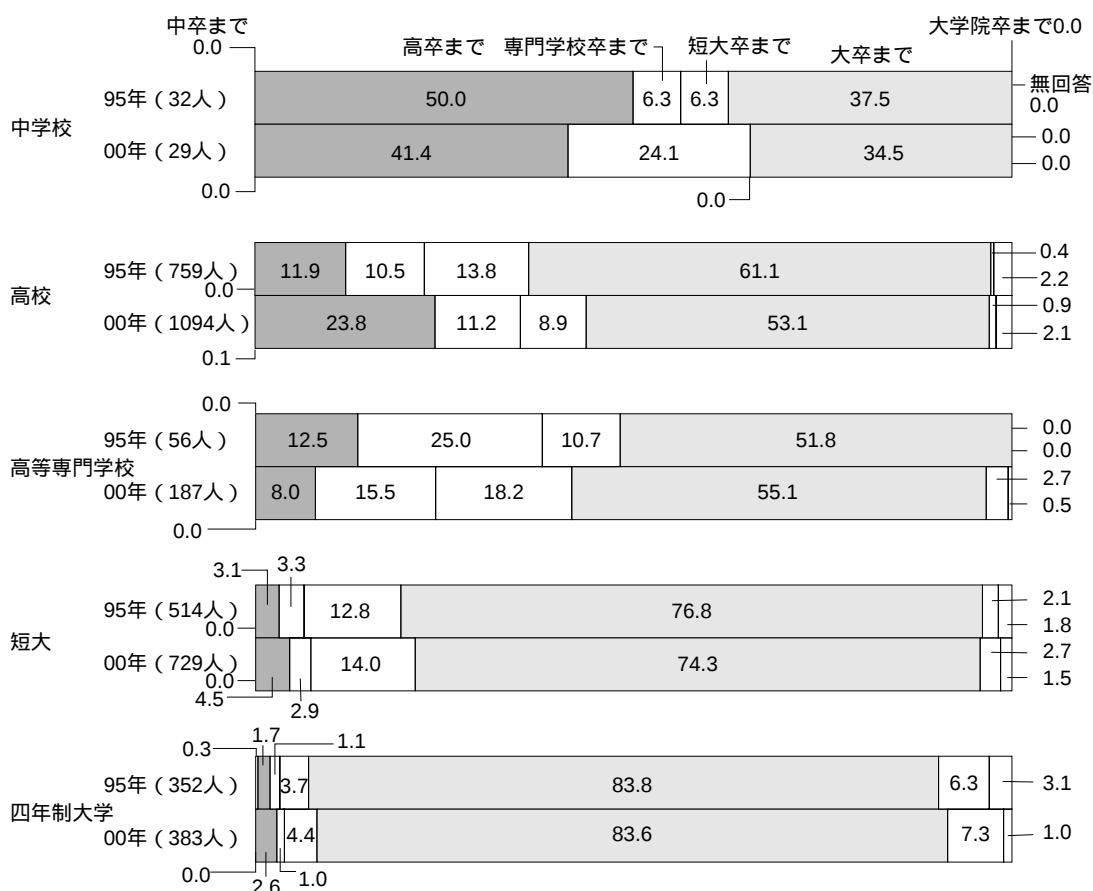


図1 - 56 子どもへの進学期待×母親の学歴（95年との比較） (%)



教育費（図1 - 57）

子ども1人当たりにかかる1か月の教育費についてたずねてみた。図1 - 57は前回との比較である。

グラフを見てわかるように、就学前の子どもに大体「1,000円～5,000円未満」（今回41.9％）の教育費をかけていることがわかった。また、前回と比較して大きな変化は見られなかったものの、「10,000円未満」は、前回70.5％、今回は74.9％と、4.4ポイント増えている。一方、「10,000円以上」は、前は26.9％、今回は24.1％と、2.8ポイント減っている。多少ではあるが、経済不況の影響があるのではないと思われる。

ちなみに子どもの年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて、教育費が上がることがわかった。

子どもの成長への満足度（図1 - 58）

自分の子どもの成長ぶりに満足しているかをたずねてみた。その結果を前回と比較したのが図1 - 58である。

「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた数値では、前回も今回もほぼ同じである。しかし詳しく見ると、「まあ満足している」は前回より9.9ポイント下がっている。一方、「とても満足している」は前回より10.0ポイント上がっている。子どもの年齢・就園状況・母親の就業状況別で見ても、「とても満足している」はすべて前回より高い数値を示している。前回と比べると、保護者は子どもの成長ぶりにより満足していると言えよう。保護者の子どもの成長への高い満足度を見ると、ほとんどの家庭で子育てへのストレスなどがあるにせよ、子どもの成長ぶりに満足している。しかも満足度が高くなっていて、子育て状況の健全さがうかがえる。

図1 - 57 1か月の教育費（95年との比較）

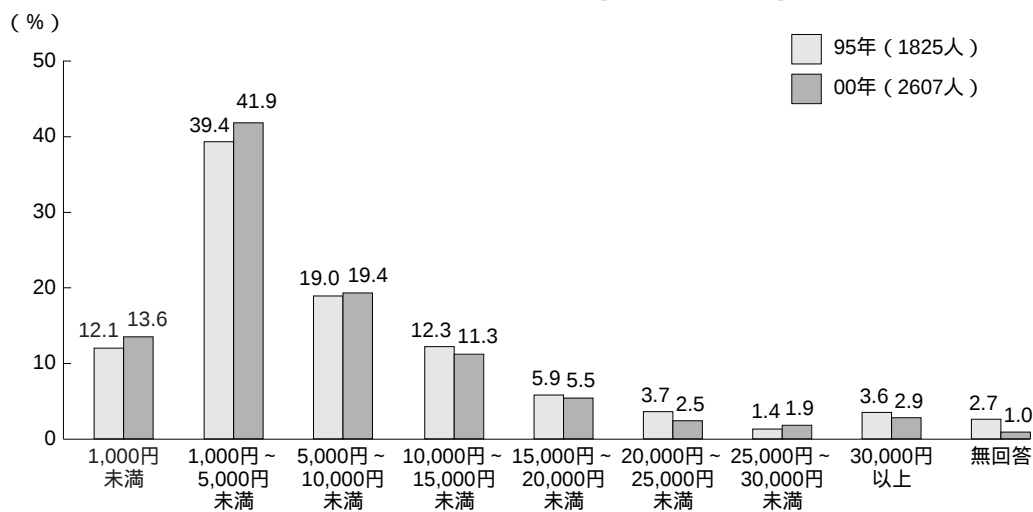


図1 - 58 子どもの成長への満足度（95年との比較）

